

## 平成29年度 第5回IFAトレセンコーチ研修会（報告）

平成29年9月18日（月）に、ひたちなか市総合運動公園陸上競技場会議室及びスポーツ広場において、茨城県内のトレセンコーチを対象として研修会を開催しました。

研修会のはじめに IFA 技術委員長の大内啓行氏から挨拶があり、続いて IFA 指導普及委員長の竹本浩氏から「U12 年代のゲーム環境」と「トレセン認定制度」について報告がありました。

午前中は、森島 修 氏（JFA ナショナルトレセンコーチ：鹿島アントラーズ FC）からトレセン活動の目的や国内大会の技術分析、世界のサッカーと日本のサッカーの差異など、最新の映像を多く盛り込んだ講義を受けました。

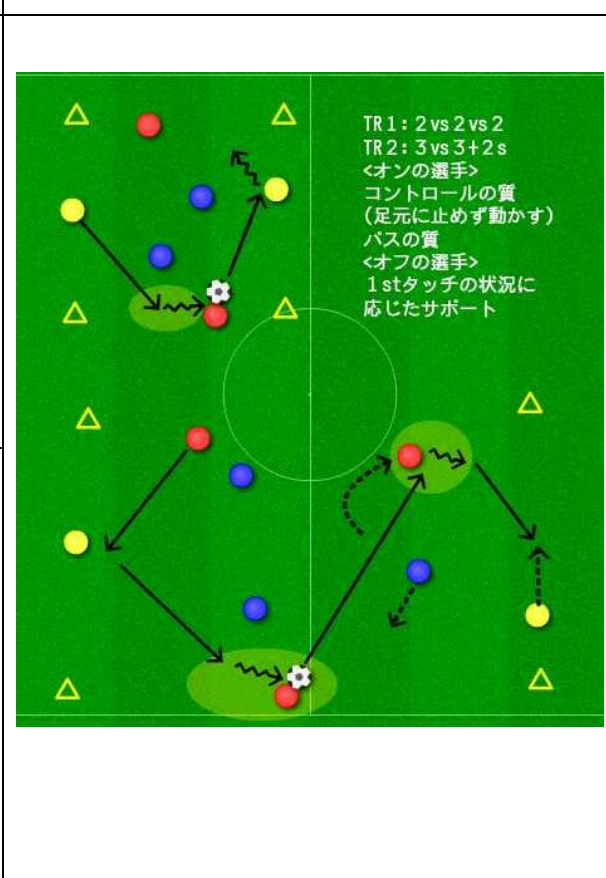
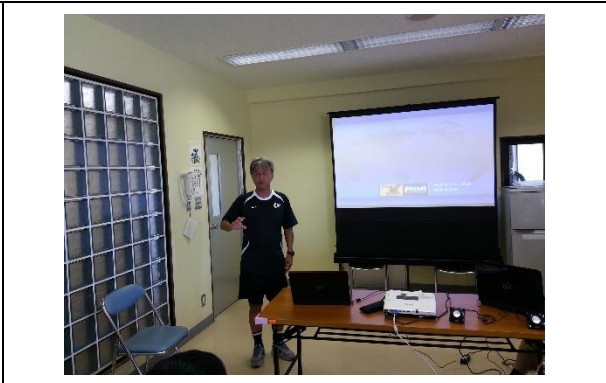
午後はスポーツ広場に移動し、7月に開催された「関東トレセンチーフコーチ研修会」に参加したトレセンチーフコーチが指導実践を行いました。今回は U12・女子 U14・U16・GK の参加者を年齢で2つのグループに分けて進行し、インストラクターの森島氏からコーチングに関する指導やアドバイスなどを受けました。

午前中の講義を受けて、午後の実技では「世界基準」や「テクニックの質」という言葉が参加者全体に広がっており、とても情熱的で激しいプレーが数多くみられました。

コーチングに関しては、昨年に引き続き、選手に「プレーの基準を示す」ことの重要性を強調しており、選手が気付くようにシンクロコーチングとフリーズコーチングをバランスよく使うようにと助言をいただきました。答えを明示することはもちろん重要ですが、「言葉を投げかけ、選手が考える（見つける）」指導の大切さを学ぶことができました。また効果的なデモンストレーションや良いプレーをたくさん褒めていたことが印象的で、参加者のモチベーションがどんどん高まっていきました。

今回講師としてお越しいただきました森島様には本当に感謝しております。今回の研修会を通して学んだことを今後のトレセン活動に生かし、茨城県サッカーの発展につなげていきたいと思っております。指導実践を担当した指導者からのコメントを報告書の終わりに載せさせていただきます。







【IFA トレセンスタッフ研修会指導実践担当者報告】

GK 担当 藤田 巧（玉造工業高校）

今回はこのような機会を与えて頂きありがとうございます。今回 GK 担当で基本姿勢・キャッチングという内容で実践を行いました。関東トレセン研修会では構えたときの手の位置について細かく指導をして頂きましたので、ボールと自らの距離において適切な手の位置を心掛けるよう意識しました。また、今回の実践にあたって（株）ウールスポーツ様より GK グローブをお借りし参加頂いた IFA トレセンスタッフの方々にも GK の実践をして頂きました。指導者の方々は非常に意欲的に取り組んで頂き、構え（手の位置）・ボールを掴む位置・ボールの種類（手投げ・キック）によって判断の違いなど意識的に実践されていました。GK にとって導入部分となるテーマであったため DF と連携してゴールを守るといった部分までは触れられませんが、個人スキルを高めていくことが今後の茨城県 GK の発展に繋がると考えています。

U12 担当 車田 孝

7月の関東トレセン研修会の落とし込みとしてテーマ“ゴールを目指す”（マークを外す）について実施しました。

攻守において厳しいバイタルエリア攻略するためのイメージをどう伝える？が難しく動き出すタイミング、シュートまで素速く、パススピードをコンセプトとしました。NTC関東担当の森島氏にはもっとU-12年代は動き出しの

タイミングがわかりづらいので手でプッシュして教えてあげる方が良いとレクチャーを受けました。

講義では世界基準とプレースピードについての映像を観ながら日本の目指す基準、目標の為に12年代から本気で日常を変えないと叶わないと感じました。

研修会に集まった熱い思いを持ったたくさんの指導者と共有できたこと感謝致します。ありがとうございました。

U14 担当 黒澤 友博

茨城県内各カテゴリー、各地域でトレセン活動に関わっている指導者が集まり、情報の共有を図ることは大変有意義であったと感じています。また、そのような中で、指導実践をさせていただき、改めて自分自身のサッカー理解やコーチングについて振り返る良い機会になりました。今回は、「パス&コントロール」のテーマで指導実践をさせていただきましたが、トレーニングのオーガナイズや選手に何を身に付けさせたいのかなど、もっと私自身の頭の中を整理する必要性を感じました。

今後もトレセンに関わる指導者として、自覚と責任を持ちながら選手と向き合い、選手を成長させることができる指導者を目指して頑張っていきたいと思えます。

U-16 県内トレセンチーフ 川又 諭（下館工業高等学校）

今回、私は7月に行なわれた、関東トレセンチーフ研修会に参加し、9月のIFAトレセン研修会で落とし込みとなる指導実践を行ないました。関東、茨城ともに講義の中心は《世界で戦うためには何が必要なのか》というところでした。まだまだ日本人は個々のスキルで伸ばすべきところがあり、その中でも『止める・蹴る・運ぶ』の技術向上はマストであると再確認しました。この点を踏まえ、私はパス&コントロールの獲得を目的とした【2 vs 2 vs 2】と【3 vs 3+2 サーバー】のトレーニングを行ないました。シンクロコーチングでのプレー回数の確保を意識しながらも、大事な場面ではデモンストレーションを行い、共通理解の徹底をできるよう努力しました。その中で、動きながらのプレーの大切さ、目的に合わせたオーガナイズの重要性を改めて確認できました。この経験を今後のトレセン活動に生かしていきたいと思えます。報告者

茨城県 FA ユースダイレクター 照沼祐治